

地区防災計画事例 岩手県釜石市唐丹町(とうにちょう)荒川地区

～津波警報発令時における車避難の有効性について～

地区について

取組主体：荒川地区自主防災会

人口：211名 世帯数：97戸（令和8年1月末）

想定する主な自然災害リスク：津波、土砂災害

地区防災計画策定に向けた取組の特徴

同地区は、地形的に住宅の背後が山地になっており、東日本大震災時には車で高台へ避難する者が多かった。他地区に比べて人的被害が少なかったことから（4名）、車避難に関する課題の解決と有効性の検証に取り組んでいる。

<これまでの取組>

令和5年と令和6年には実際に車を使った避難訓練を実施し、緊急避難場所まで約4分で到達することができることを確認している。

<今年度の取組み（モデル事業）>

実際に荒川地区造成団地まで避難ルート歩いて、危険箇所や防災設備等の確認を行った。そこで確認した内容を踏まえ津波警報発令時の車避難を想定した災害シナリオを作成し、地区住民がシナリオを実演することにより車避難における問題点等を洗い出し、「普段からやっておくこと」「避難時に気をつけること」「避難後にすべきこと」に分けてルール作りを行った。

3回のワークショップを通じて、同地区の車避難の可能性について確認することができた。また、参加者のほとんどが防災士資格取得者で、地区防災計画の策定に向けた中心的なメンバーであったので、問題意識の啓発とスキルアップにつながった。

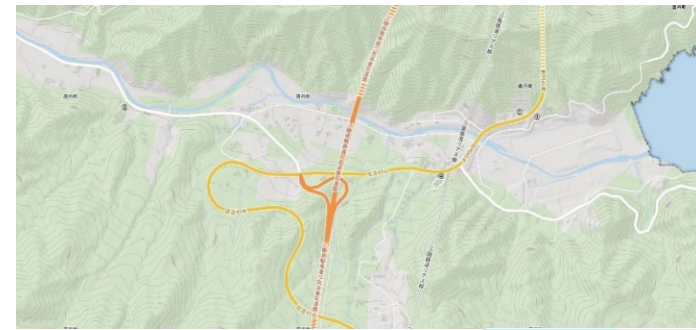
<地区独自の取組>

地区住民の防災士資格取得を推奨し、自主防災組織の体制作りを進めている。また、最大クラスの津波浸水想定で変更になった避難場所の説明や、防災学習、親子炊出し訓練、消火器の使い方訓練等を実施してきた。

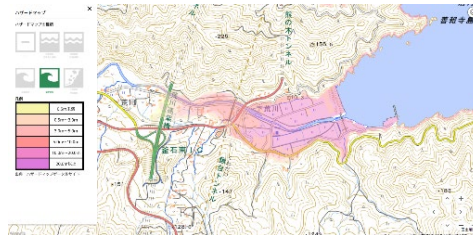
<今後の展開>

今回のワークショップで検討した避難ルールを津波避難版として明文化し地区防災計画にまとめる。

今後さらに、車避難する際の様々な状況について検証し、計画のブラッシュアップを図る。また、同地区は海側から山側まで東西に長い地域であるので、山側の土砂災害避難版も今回の手法を用いて展開し、同地区全体の防災計画策定を進める。



地区の位置



津波浸水想定区域

避難場所	対象地域
① 地野神社境内	唐丹町上荒川
② 荒川消防屯所前広場	荒川下荒川
③ 荒川集会所前広場	
④ 荒川地区造成団地	

緊急避難場所



ワークショップの様子



訓練写真

地区防災計画事例 宮城県仙台市福住町(ふくずみまち)

～自分たちの町は自分たちで守る～

● 地区について

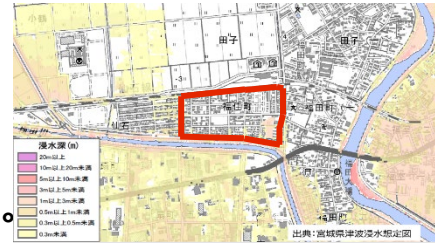
取組主体：福住町町内会

人口：1,667名（令和8年1月現在）世帯数：408世帯

想定する主な自然災害リスク：風水害、地震

● 地区防災計画策定に向けた取組の特徴

夏祭りや秋の防火防災訓練を通じ、防災意識を向上させるとともに、福住町自主管理マニュアルを作成し、自助・共助の意識を浸透させている。医療連携について、福住町の期待や医学生がボランティアとしてできること、医療トリアージ等についても整理している。



福住町の災害想定

<これまでの取組>

同地区は、これまで「防災わがまち福住町自主管理マニュアル」、「福住町防災パンフレット（水害編）」を作成し、防災・減災の取組を重ねてきた。

<今年度の取り組み>

- ・3回のワークショップで、自主管理マニュアルをもとに意見交換を行い、福住町の地区防災計画骨子を作成した。
- ・夏祭りや防火防災訓練に内閣府や仙台市が参加し、意見交換を行い、振り返りや将来の展望について取りまとめた。
- ・医療連携について、医学生によるボランティアに必要な手続き（保険加入）、町の期待や医学生にできること、医療のトリアージや免責事項などを整理した。

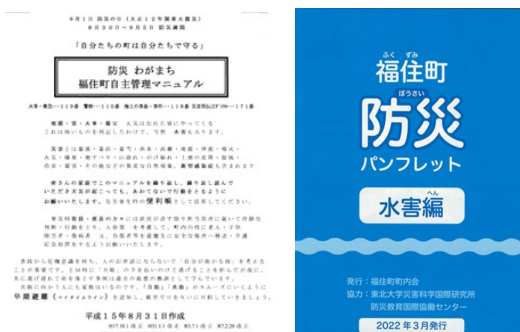
<夏祭り・防火防災訓練（福住町独自の取組）>

- ・夏祭りでは、老若男女・町外からも集客し、“みんなが楽しめる”企画を行った。毎年たくさんの方が夏祭りに集まり“顔の見える関係性”を構築し、実災害時に助け合う(共助)ことができるベースを築くことができている。
- ・防火防災訓練を秋に実施し、日曜日に小中学校の授業として子供たちが訓練に参加している。訓練内容は実践的なものになるよう企画している。

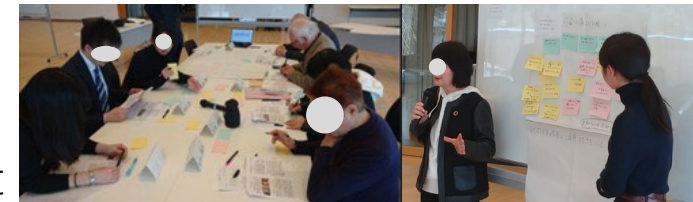
<今後の展開>

福住町に関しては文書化されていないことを文書化し、マニュアルやノウハウを次世代へ継承しくことが課題である。

仙台市の他地域においては福住町をモデルとし、今回の事業で得た成果やノウハウを市内他地域に横展開、地域の特性に応じた計画作成への助言、地区防災計画作成を通じた地域コミュニティの醸成を図る。



福住町作成のマニュアル関連



ワークショップの様子



夏祭りの様子



防火防災訓練の様子

地区防災計画事例 栃木県足利市名草地区

～名草地区における、自助・共助の取組を推進し、町内の被害者ゼロを目指します～
 ～名草地区において、共助の精神を養い、災害から住民の命を守ります～

地区について

取組主体：名草地区自治連合会

人口：631世帯・1,539人（高齢化率約49%）

想定する主な自然災害リスク：洪水浸水災害、土砂災害、ため池災害、地震災害

地区防災計画策定に向けた取組の特徴

行政と地域が協力し、ローカルナレッジを活かしたまち歩き・ワークショップを通じて、実践的な地区防災計画を段階的に作成している。また、計画を「作って終わり」にせず、毎年見直すPDCA型の継続運用を予定している。

<これまでの取組>

- ・足利市役所と名草地区が協力してタタキ台となる防災計画(案)を作成。

<今年度の取組（モデル事業）>

モデル事業では、地区防災計画ガイドブックの説明とローカルナレッジに関する講義の後、名草地区の危険地点（9か所）のまち歩きを実施。その後、3グループ(上町・中町・下町)に分かれて防災マップを作成。

避難マルチシナリオに関する講義の後、各グループで防災マップへのマルチシナリオ折り込みを実施。また、声掛け方法、安否確認方法等について検討。

地区防災計画の作成ガイダンスと事例紹介の後、各グループで防災マップの避難場所と避難ルートを再検討。

その後、地区防災計画への折り込み項目と計画策定の日程案を作成。

<今後の展開>

- ・第3回ワークショップで作成した日程案に基づいて打ち合わせを進め、令和7年度内に地区防災計画を策定する。
- ・策定した計画は作って終わりではなく、実行→確認→修正のサイクルを回して毎年、期日を決めて改訂していく。



まち歩きの様子



グループワークの様子



作成した防災マップの例

折り込み項目 直ぐには解決できないことも 挙げて下さい。	検討内容 単語でも文章でも、思い付いたことをドンドン書いてください。
1 避難場所/避難ルート	や町自治会等
2 避難所の運営	自治会等、民生委員、避難所、後援会等 (自治会等) 等
3 三地区の協力体制と内容	トランシーバー活用
4 平時の活動	避難所運営委員会とふりかえり (5.15.20)
5 災害時の活動	町民会、町民会(待機) (5.15.20) (5.15.20)
6 避難イメージ	レベルで各々避難所等 (5.15.20) (5.15.20) (5.15.20) (5.15.20)
7 要援者対応	民生委員等、町民会、町民会
8 高齢者への対応 (1人1人)	町民会(町民会) (町民会)
ペットの扱い	避難所に連れて行きたい 「帰らなうするのかわい」 「ペット」
濃煙と不安なこと	「夜中に異変したらどうしよう」

地区防災計画へ折り込み項目の検討例

今後の進め方	12月	1月	2月	3月
1 三地区の検討項目集約	避難所の確保!!	町民会等 (町民会)	町民会等 (町民会)	
2	町民会等 (町民会)	町民会等 (町民会)	町民会等 (町民会)	
3	町民会等 (町民会)	町民会等 (町民会)	町民会等 (町民会)	
4	町民会等 (町民会)	町民会等 (町民会)	町民会等 (町民会)	

名草地区防災計画完成 ★

計画策定(年度内)に向けた日程案の作成例

地区防災計画事例 新潟県柏崎市高田地区 ～地区の知恵と経験を生かした防災計画づくり～

地区について

取組主体：高田地区コミュニティ振興協議会
 人口：3,354名・世帯数：1,484戸（2025年12月現在）
 想定する主な自然災害リスク：地震災害、洪水浸水災害、土砂災害
 黒滝、貝淵、新道・水落、堀、横山（浸水、土砂災害、地震）
 向陽町、藤橋、南下、上方、下方（地震）

地区防災計画策定に向けた取組の特徴

訓練と見直しを繰り返す継続的な改善プロセスを重視し、平時から災害時に「実際に動ける体制づくり」を目指し、取組を行っている。

<これまでの取組>

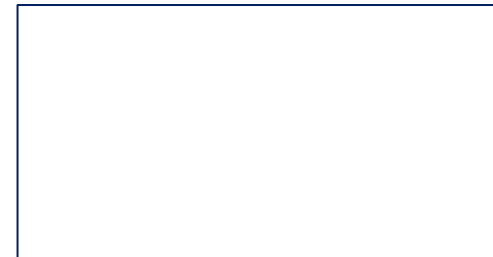
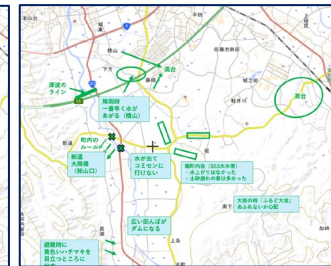
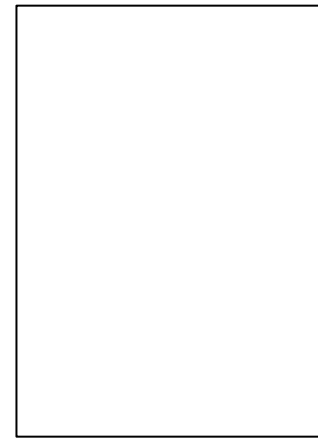
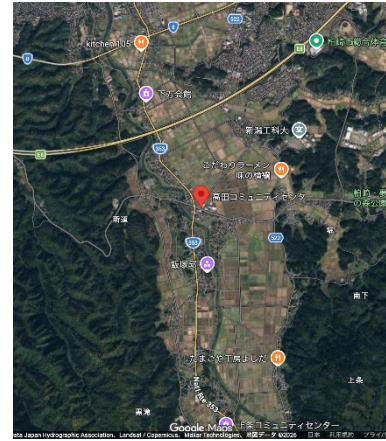
- 高田地区コミュニティ計画（令和6年～令和8年3月）
3ヶ年計画に基づき、令和6年度に研修会や訓練を実施している

<今年度の取り組み ワークショップの内容（モデル事業）>

- 第1回目：「皆さんの知恵を経験を踏まえた災害に強い地域づくり」
参加者が地区の中にあると感じている（過去に経験した）危険性を共有することを目的に、地図を使用したワークショップを実施
- 第2回目：「災害時に本当に機能する組織づくり」
1回目のワークショップを踏まえ、町内会単位での危険性を整理し、必要な対応、活動を検討
地区で取り組むこと、町内会で取り組むこと、そして協力、連携できそうなことについて意見交換を行った
- 第3回目：「地区のリスクの確認と特徴を踏まえた災害対策の検討」
高田地区コミュニティ振興協議会が作成した防災計画（案）をもとに、次年度以降の取り組みについて検討
町内会ごとの特徴に合わせ、リスクとやるべきこと、具体的に決める内容、他地区との連携の整理を行なった

<今後の展開>

- 今年度作成した防災計画にもとづき、町内会や地区で防災訓練を実施
『訓練→課題の検討→計画の変更』を繰り返し、地区防災計画のブラッシュアップを継続する
- 実行可能な計画を作成し、災害時に動ける体制を作ることを目指す



第1回、第2回
ワークショップの成果物の一部



ワークショップの状況

地区防災計画事例 長野県長野市日詔区

～高齢者も子どももペットも みんなで生きる、みんなを支える～

● 地区について

取組主体：日詔区自主防災会

人口：3,093名（令和8年2月現在）世帯数：1,451世帯

想定する主な自然災害リスク：風水害、地震



● 地区防災計画策定に向けた取組の特徴

高齢者、子どもたち、ペットを飼っている人など、日詔区に暮らす人々が
みんなで対話と訓練を愚直に重ね、「防災のまち日詔」を描いている。

<これまでの取組>

同地区は、これまで「自主防災対策要綱」、「日詔区防災マニュアル」を作成し、
防災・減災の取組を重ねてきた。

<今年度の取り組み>

- 3回のワークショップで、同地区の被害想定を再確認し、これまで検討できていなかった「ペットを飼っている人の避難」「子どもたちの避難生活（児童館との連携）」といった課題について取り組んだ。過去に水害被害を経験した方の講話を聞く機会も得て、災害を自分事に引き寄せる大切さを共有した。子どもたちを含む多くの区民と関連団体が参加し、当事者が地区防災計画を検討する現場に参加することで、新たな視点を獲得できた。
- これまでの取組に「地区防災計画（案）」を加え、日詔区防災三本柱を整え、更なる地域防災力の向上を図っている。

<日詔区防災訓練（日詔区独自の取組）>

自主運営する日詔公民館を活用した「避難所運営訓練」を実施し、避難生活を体験する機会を持ったことで、自分事に引き寄せられた。会議ではなく、「当事者のリアルな対話」と「ひとまずやってみる訓練」を組み合わせることで、「当事者意識の引き上げを実現」し、コミュニティの防災意識が熱を帯びた。

<今後の展開>

ワークショップと訓練で得た内容も、今後の取組に反映できるよう「日詔区地区防災計画」にまとめ、令和8年度以降、芹田地区、長野市との連携といった、さらなる進化の準備を整えている。



ワークショップの様子



自主運営する避難所での生活を想定した訓練の様子

地区防災計画事例 兵庫県宝塚市西谷地区

孤立から自立へ ～「こころにとどく防災」～

● 地区について

取組主体：小学校区域のまちづくり協議会および自治会連合会
人口：2,033人 世帯数：730世帯 高齢化率50.2%（R7/12現在）
想定する主な自然災害リスク：浸水害・土砂災害、地震、山林火災、道路寸断による孤立

● 地区防災計画策定に向けた取組の特徴

山間・高齢化地域の特性を踏まえ、「孤立から自立へ」を掲げ、住民主体で実効性の高い地区防災計画を策定。計画の継続的見直しと人材・資機材の把握により、災害時に地域で動ける体制づくりを目指している。

<これまでの取組み>

山間の広大な地域で高齢化率も高く、一番の懸念事項は災害による道路寸断が引き起こす「孤立」。コロナ禍により計画作成が中断していた。

<今年度の取組み（モデル事業）>

公助が届きにくい地域で、住民自らが動く「孤立から自立へ」を掲げ、命を「守る」だけでなく「つなぐ」ことを念頭に実効性の高い計画作成を目指した。

・3回のWSで地区内の強み、弱みなど洗い出し、地区の情報共有を図り、台風一過後の高齢者及び負傷者が発生した場合の対応の課題を検討、道路情報、対応策及び今後の備えにまで意見交換がなされ、課題認識が共有でき、対応の方向性が概ね見えてきた。

また、WSと並行して宝塚市の支援のもと、地区防災計画素案作成を進めて、第3回WSで素案提案され、住民主体で意見交換を行い、キャッチフレーズを掲げる事とし、アドバイザーの助言を受け西谷地区独自の計画素案素案が完成した。

<地区独自の取組>

土のう積み、消火ポンプなど実践的な訓練を実施している。

<今後の展開>

毎年、計画の見直し及び訓練を実施し、計画自体も改訂する。

- ・資機材の取扱い訓練の
- ・重機操作、介護・看護などにあたることのできる人材及び資機材リストの見直し



西谷地区のハザードマップ



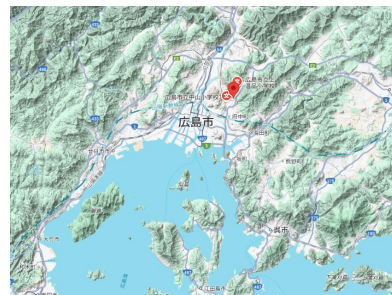
ワークショップの風景

地区防災計画事例 広島県広島市温品(ぬくしな)学区

~先人たちが残してくれた災害の教訓を忘れない
地域で命を守るチーム温品防災スマイル計画~



ステッカー



● 地区について

取組主体：温品学区自主防災連合会

人口：世帯数：3,318世帯 人口：7,248人 高齢化率：28.4%

過去の災害経験：大正15年9月11日土砂災害で死者4人・家屋の流出や倒壊115棟。平成30年7月西日本豪雨で河川の護岸崩落10箇所以上

想定する主な自然災害リスク：土砂災害、風水害

● 地区防災計画策定に向けた取組の特徴

多様な地域団体を巻き込んだ活動、地域の事業所・店舗との協力体制の確立、平時からの行政との連携、防災キャラクター作成による普及活動等を行っている。

<これまでの取組み>

- 「命の袋」を作成し各家庭に配布、避難者情報のデータベース化、2017年度から防災士を中心に防災学習を実施している。
- 平時から行政と連携した活動を行い、専門的な知見や制度面での情報提供を受け、地区住民は地域の現実に即した課題の共有を行っている。



地区防災計画書素案

<今年度の取組み>

- 防災キャラクターの作成を行い、地域の事業所や店舗へのポスターやステッカーの掲示、災害時の協力体制づくりや平常時の啓発活動への参加を依頼し、日頃からの連携を深めている。
- 住民、町内会、各種地域団体、事業者及び行政が一体となり、平時から顔の見える関係を構築し、防災活動の持続性や多様性に繋がる取組を実施している。
- 3回のワークショップでは、参加者が自らの不安や課題を共有しながら、8グループに分かれ、実際に取り組みたい防災アクションを検討し、グループごとに具体的な実施内容を整理した。参加者は「不安の見える化 → 取り組むべきテーマの選定 → 実施計画づくり」を通じて、今後の活動の方向性をみんなで導き出すことができた。



命の袋

避難所受付システム



ワークショップの様子

<今後の展開>

- ワークショップでの意見を地区防災計画書素案に反映し、令和8年度以降、広島市への提出を予定している。

地区防災計画事例 熊本県熊本市中島校区

～防災計画でみんなの笑顔を守る町-なかしま～

● 地区について

取組主体：地域の防災士の会を中心に校区防災連絡会と連携
人口：1,741世帯人口3,974人高齢化率30.8%
想定する主な自然災害リスク：津波、高潮、河川の氾濫、地震による液状化

● 地区防災計画策定に向けた取組の特徴

校区全11町内が参加し、町内ごとに地域特性を踏まえた防災活動計画と「防災あいことば」を定め、相互共有によって継続性を高めた取組を実施している。

<これまでの取組み>

- ・地元大学教授の支援のもと、課題の抽出及び、課題への対策案を校区内11町内参加でワークショップにて検討、共有を行った。
- ・特に共通の課題として挙げられた5つの社会問題について議論を深めることによって、より具体性のある対策案が練られた。

<今年度の取組(モデル事業)>

校区内全11町内がそれぞれに、居住地域の地理的ハザードや人的リソースなど詳細について協議・検討した上で次年度に取り組む防災活動とその実施時期を決めることができた。また、町内ごとに防災活動を継続するスローガンとしての「防災あいことば」を決定、全町内相互に発表することで共有した。←【各論】

<今後の展開>

- ・全町内の今後の活動やあいことばを、住民へ周知すると共に、各家庭での避難ルール（避難先やタイムラインなど）を記入できる仕組みを盛り込んだ【各論】概要版を全戸配布予定。
- ・【各論】と行政から提供されているフォーマットを用いて整合性を確認しつつ、校区全体の【総論】にまとめ、地区防災計画として提案する。

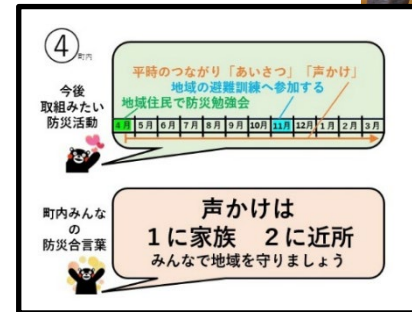


町内ごとの地理的特徴や、平時の課題、災害時の想定などの防災を考える上での漠然とした「不安」を話し合った。

一方で、町内のポジティブなリソースについても意見を出し合い「工夫」できる方法を模索、検討した。

ワークショップでは、地域住民として消防団や小学生の参加も見られ多様な年齢層が互助と「近助」について課題に向き合った。

また、町内ごとに【今後の防災活動内容と実施時期】と【防災あいことば】を宣言するスタイルで発表したことで継続的な取組みであることへの意識付けを狙った。



ワークショップ実施後、地区防災計画作成コアメンバー(中島校区防災士会など)による自主活動として、各町内の町あるきを実施。

狭小な道路や水路、危険箇所や井戸、AED設置場所などの確認を実施、校区全体の「逃げ地図」としてマップへの落とし込みを行った。

